

# 国語科

端名 秀雄

岡崎 和美

黒川 陸郎

## 1. ESDの取り組みにあたって

本校でESDの研究を進めるにあたり、国語科において考えられる題材を話し合った。国語科では、教材の取り挙げ方によってESDとのいろいろなつながり方が考えられそうであるが、まず、ESDでよく取り挙げられる国際理解、気候変動、生物多様性、エネルギー等の題材を扱った内容の教材を抜き出してみた。これらの教材では、作品に書かれている内容から広げてESDの題材につなげたり、他教科とつなげたりすることが出来る。

具体的にESDの題材を考えるにあたっては、持続可能な社会づくりの構成概念の、「Ⅰ 多様性」「Ⅱ 相互性」「Ⅲ 有限性」に関わって次のような授業を考えていくことにした。

「Ⅰ 多様性」…日本や世界の文化の中にある多様な考え方を学ぶ授業。

〔例：「江戸からのメッセージ」(1年)、「アイスプラネット」(2年)、「俳句の可能性」・「アラスカとの出会い」(3年)〕

「Ⅱ 相互性」…日本と世界の文化がお互いに関わっているかを学ぶ授業。

〔例：「旅する絵描き」(2年)、「温かいスープ」(3年)〕

「Ⅲ 有限性」…自然・文化・社会・経済の有限性を、日常生活の問題解決へつなげる授業。

〔例：「流氷とわたしたちの暮らし」(1年)、「モアイは語る」(2年)、「夏草」(3年)〕

また、もう少し抽象的な部分では、教材の読み取り方や作者のものの考え方、自分の考えの発信の仕方等を学ぶことによって、ESDの概念とのつながりが生まれてくると思われる。

本校国語科では、これまで「論理的な思考力」の育成をねらいとして研究を進めてきた。そこで、これとESD研究の目標を関連させ、持続可能な社会の形成者として必要な能力や資質として、「持続可能な社会を形成するための課題を、国語科で学習した論理的な思考力を使って解決する力と、国語科で学習したことを積極的に使おうとする姿勢」と捉え、その力と姿勢を育成することにした。

## 2. 教科の学習目標とESD

(1) 国語科で特に重視したい「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」

国語科においては、上記1に従って題材を考える中で、ESDの視点に立った学習指導で重視する①～⑦の能力・態度のうち、特に「①批判的に考える力」「③多面的、総合的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」に着目し、それぞれの能力・態度の中で、学習指導要領の国語科で培う力に置き換えると、以下のような力に相当すると考えた。

①批判的に考える力……………2年C(2)ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較することができる力。

3年B(2)ア 関心ある事柄について批評する文章を書くことができる力。

- 3年C(2)ア 物語や小説などを読んで批評する力。
- 3年C(2)イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む力。

- ③多面的，総合的に考える力……1年C(2)イ 文章や図表などとの関連を考えながら，説明や記録の文章を読む力。
- 2年B(2)イ 多様な考えができる事柄について，立場を決めて意見を述べる文章を書く力。
- 3年B(2)イ 目的に応じて様々な文章などを集め，工夫して編集する力。

- ④コミュニケーションを行う力…1年A(2)ア 日常生活の中の話題について対話や討論などを行う力。
- 1年B(2)ウ 行事の案内や報告をする文章を書く力。
- 2年B(2)イ 社会生活に必要な手紙を書く力。
- 2年C(2)ア 詩歌や物語などを読み，内容や表現の仕方について自分の考えを述べる力。
- 3年A(2)イ 社会生活の中の話題について，相手を説得するために意見を述べ合う力。

(2) ESDに関連する国語科の目標と評価規準，思考力・判断力等との関連について

今年度は研究部の方針として，「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」のうち，特に①～④と教科の思考力・判断力・表現力との関連性を考えることになっている。そこで，前述の国語科で重視したい能力・態度①③④と関連性が深いと思われる評価規準表の記述を，下記のように対比させてみた。

- ①批判的に考える力……3年A(1)エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き，自分の考えと比較することができる。
- 3年B(1)エ 書いた文章を互いに読み合い，論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに，ものの見方や考え方を深めることができる。
- 3年C(1)ウ 文章を読み比べるなどして，構成や展開，表現の仕方について評価することができる。

- ③多面的，総合的に考える力……1年B(1)オ 書いた文章を互いに読み合い，題材のとらえ方や材料の使い方，根拠の明確さなどについて意見を述べたり，自分の表現の参考にしたりすることができる。
- 1年C(1)オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ，自分のものの見方や考え方を広くすること

ができる。

- 1年C(1)カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。
- 2年A(1)ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理することができる。
- 2年B(1)オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げることができる。
- 2年B(1)ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。
- 2年C(1)オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめることができる。
- 3年B(1)イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くことができる。

- ④コミュニケーションを行う力…
- 1年A(1)オ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして自分の考えをまとめることができる。
  - 1年B(1)ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くことができる。
  - 2年B(1)ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くことができる。
  - 3年A(1)イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うことができる。

Aは「話すこと・聞くこと」、Bは「書くこと」、Cは「読むこと」からの抜粋である。

これまでも本校国語科では思考力・判断力・表現力について、これらA・B・Cの観点から評価を行ってきたのだが、上記①、③、④のESDの視点においても大きく関わってくるのがわかる。教科とESDのつながりを意識することで、「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の育成は、国語科における思考力・判断力・表現力の育成と充分につながるものと考えられる。

3. 1年 実践例

構成概念… I 「環境」「国際理解」「生物多様性」「防災」「気候変動」「貧困」「エネルギー」  
「世界遺産」

教科としてつきたい力（思考力・表現力・判断力）

評価規準より…「日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめる力。」  
課題について…夏休みに上記のテーマのいずれかについて新聞記事を切り抜き、感想を書かせた。  
ESDに興味・関心をもたせるための学習の一環として実施した。

※「生物多様性」北国新聞

「生物多様性」

26日、この記事では13地点中10地点で今年最高の気温を観測していました。やっぱり夏は暑いです。金沢市でも26日は最高気温が35.0度で今年最高の気温を観測しました。今は35.0度が最高だけど、8月に入るともっと暑くなると思うので、猛暑対策はしっかりしないとイケないと思います。

「気候変動」

最近海のゴミが増えています。流れ着いたゴミの量は2012年で約8万トンに上ります国内からの他にも周辺の国から流れてくるゴミもけっこう多いです。ゴミが流れていると海の生態系や景観などに大きな影響を及ぼします。だからできれば一刻も早いうちに回収しなければなりません。それでもゴミなど捨てる人は多いと思います。一人一人が意識しなければいけません。きれいで美しい海を守るために一人一人が頑張らないといけないと思います。

「環境」

「北国新聞」記事より 「国際理解」

「北国新聞」記事より

本実践は、文学的文章の指導において作品の一部として描かれた挿絵に注目させ、挿絵に描かれた世界を読み解くことで作品の読解をより深めようとしたものである。(後ページ指導案参照)

扱った作品は「大人になれなかった弟たちに……」(米倉齊加年 光村1年)である。この作品は、原作が絵本であり、挿絵もすべて作者の手によるものである。中学校の文学的文章教材の中でこのような作品は他にはなく、そのような点からもこの作品を題材とすることにした。

作者自身の手による挿絵であるだけに、そこに描かれた世界は、作品の文章表現に相当する、あるいはそれ以上の内容をもったものといえる。それを読み解くにあたり、学校研究のESDのねらいである教科とのつながりをふまえて、美術科の協力を仰ぐこととした。

この作品の挿絵はすべて鉛筆で描かれたものである。美術科の授業で、鉛筆画を題材として扱うタイミングに合わせて、本作品の挿絵をサンプルとして取り上げてもらい、それらの絵の特に技法的な面について授業で解説をしてもらった。(美術科のページ参照)

教科書に掲載されている挿絵は2枚であるが、原作では表紙や扉の絵をすべて合わせると19枚の挿絵がある。その中から事前に打ち合わせをして、美術科で2枚の挿絵を扱ってもらうこととした。

本校は1学年4クラスあるが、本実践では2クラスだけ美術の時間に挿絵を扱ってもらい、残りの2クラスはあえて扱わずにおき、それによる違いの有無も確かめようとした。

国語科ではその2枚の挿絵と、その場面に相当する文章の両方を提示し、(後ページ資料参照)

- ①挿絵にも文章にも描かれているもの
- ②文章には描かれているが挿絵には描かれていないもの
- ③挿絵には描かれているが文章には描かれていないもの

という3つの視点で文章と挿絵を比較して考えさせた。ワークシートを作成し、

- ②については、なぜ挿絵に中に描かれていないのか
- ③については、その挿絵が何を表しているのか

ということも問いかけた。生徒たちからは次のような反応が返ってきた。

### 挿絵Aについて

「文章にあって挿絵にないもの」	「挿絵にあって文章にないもの」
<ul style="list-style-type: none"> <li>・十日間の入院</li> <li>・栄養失調</li> <li>・小さな小さな口に綿にふくませた水</li> <li>・泣きもせず、静かにいきをひき取りました</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 三人の周りの暗い影</li> <li>イ 電気から差しているまっすぐな光</li> </ul>
<p>「なぜないのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれも挿絵では描けない</li> </ul>	<p>「何を表しているのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア <ul style="list-style-type: none"> <li>・弟が死んだことによる暗く悲しい雰囲気</li> <li>・言葉では表せない深い悲しみ・暗い気持ち</li> </ul> </li> <li>イ <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>天からの迎え</u></li> <li>・<u>天国への一筋の光</u></li> <li>・<u>弟が天国へ行ってほしいという作者の願い</u></li> </ul> </li> </ul>

## 挿絵Bについて

「文章にあって挿絵にないもの」	「挿絵にあって文章にないもの」
ア B 2 9	ア 三人の周りの暗い影
イ バス	イ 入道雲
ウ ブーンブーンというエンジンの音	ウ 山
エ 三里の道	「何を表しているのか」
オ 空は青くすんでいました	ア
「なぜないのか」	・弟が死んだつらい気持ち
ア	イ
・B 2 9は描いてしまうと、見る人によって印象が異なる	・夏の空・悲しみの象徴
・風景が安っぽくなる	・高い空
・空の高さを感じなくなる	・弟がもう苦しまなくてすむという安心感
・心の中が空っぽなので何もない方がよい	・自然は何も変わっていないという感じ
オ	・悲しみの象徴（ほ乳びんや母の顔の挿絵の背景にも入道雲があった）
・空の色はなくてもわかる	

上記のように、挿絵と文章表現を並べて比較させることにより、それぞれの特徴を実感させることができた。特に、挿絵Aの場面は文章表現が短文で、事実が淡々と語られており、感情表現はみられない。それが逆に悲しみを誘う効果的な表現にもなっているのだが、挿絵にはそれを補うような暗い影（生徒たちは気持ちの暗さや悲しみととらえた）が描かれていることを実感できた。

また、弟が死んだことが挿絵からはわからないという意見が出た一方で、電灯から降りている一筋の光が、弟が昇天する時の「天国への一筋の光」であるという解釈をした生徒もいた。

このような解釈は、美術科で挿絵を扱ったクラスだけにみられたもので、授業で挿絵について深く考えたことによる成果と言えるだろう。

挿絵Bに関しては、美術科での扱いの有無に関わらず、文章中にあるB 2 9の機体が描かれていないことは容易に発見できた。また、その理由もそれぞれが文章表現と照らし合わせて、挿絵にしてしまうと「美しい」という主観的な見方が、人によって印象が変わってしまうとか、空虚な状態を表すのには描かれていない方がよいなどという意見がみられた。

また、文章表現には出てこない入道雲が、他の挿絵の背景としても描かれていることに気がついた生徒もおり、悲しみの象徴のようなものという解釈をしていた。

鉛筆画の学習をした生徒たちは、まるで白黒の世界の中に色が見えているように、青い空は着色の必要がないという意見を出していた。

以上のように、挿絵に注目することで、文章表現だけの読解よりも作品の読みが深まったことを実感できた。その背景には、挿絵を美術科で扱ったことによる関心や注目度の高さが影響しているものと考えられる。また、技法的な面から挿絵を解釈したと思われる効果もみられた。

文学的文章教材の挿絵は、通常作品の作者以外の描き手によるものであるが、それでもこの作品のように文章読解の補助手段として活用できる可能性は感じた。今後の指導の中で工夫してみたい。

今回の実践にあたっては、計画立案の段階から金沢大学の折川司教授にアイデアとご助言をいただいた。紙面を借りて感謝申し上げる。



# 1年4組 国語科 学習指導案

平成26年11月22日(土)

2時間目 1-4教室

指導者 端名 秀雄

1. 単元名 「大人になれなかった弟たちに……」

2. 目標

- ・文章の記述と挿絵の両方をふまえて、作品の内容の理解を深めることができる。
- ・登場人物の行動や情景描写から心情を読み取ることができる。
- ・戦時中という時代背景や「ひもじさ」という状況について考えることができる。

3. 評価の観点と規準

- ・文章と挿絵の両方をふまえて、作品の内容の理解を深めることができている。【読むこと】

4. 指導にあたって

(1) 教材観（教材のつながりについて）

本教材の原作は、挿絵が作者自身の手によって描かれた絵本である。挿絵が描かれている文学的文章は多いが、作者自身の手によるものは中学校の教材ではこの作品だけである。

本単元では、金沢大学の折川司教授のご助言を得て、教材のつながりとして美術科で原作本の挿絵を解説してもらうこととし、それを国語科の文章による読解と重ね合わせて読みを深めようと考えた。美術科の授業では、文章は見せずに、挿絵を対象として描かれた世界を想像させてもらった。作者自身の手によって描かれた挿絵には、文章には表現しきれていない世界も描かれていると考え、教科書には掲載されていない挿絵も取り上げることにした。

また、美術科で挿絵を取り上げてもらうクラスとそうでないクラスを作り、その差を検証しようと考えている。

この教材では、挿絵を題材として扱うということで美術科との内容的なつながりをもったが、教材の背景にある「戦争」について考える（社会科等で扱ってもらうことも可能）ことによって過去や現在との時間的なつながりを、また、内容に関わって「栄養失調」や「ひもじさ」に関することを取り上げる（技術・家庭科等で扱ってもらうことも可能）ことによって世界との空間的なつながりを図りながら学習を進めていくこともできると考える。

(2) 生徒観・指導観（思考力・判断力・表現力との関連と指導について）

国語科では、ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の例として挙げられている7項目のうち、「①批判的に考える力」、「③多面的、総合的に考える力」、「④コミュニケーションを行う力」が教科の立場からは特に重要であると考えた。

その中で本単元では、「③多面的、総合的に考える力」の育成を重視したい。本校では、社会科でもこれまで「多面的、多角的」な思考力を育む指導を実践してきており、生徒たちは様々な視点から物事を考えるという発想は持ち合わせている。

本教材では、絵画と文字という別次元の手段で表現されたものの共通点を考えさせること（これはESDの持続可能な社会づくりの構成概念の例の「Ⅱ相互性」に該当するものと考え）を通して、挿絵を含めた絵本という作品に描かれた世界について多面的、総合的に思考してくれることを期待している。

5. 指導計画（総時数5時間）

- 第1次 美術科で、挿絵の内容について話し合う。 (1時間)
- 第2次 作品を読み、内容を理解する。 (3時間)
- 第1時 作品を通読し、各自の感想をもつ。
- 第2時 文章を挿絵単位に分割し、読みを深める
- 第3時 文章と挿絵を比較し、読みを深める。【本時】
- 第3次 その他の挿絵を参照しながら作品を振り返る。 (1時間)

6. 本時の学習（第2次中第3時）

(1) 題材名

- ・「大人になれなかった弟たちに……」

(2) ねらい

- ・挿絵の描き方や内容について言葉で説明することができる。
- ・文章表現と挿絵を比較し、その共通点や違いについて考えることができる。
- ・文章表現と挿絵から登場人物の思いを想像することができる。



(3) 評価の観点と規準

- ・文章表現と挿絵から登場人物の思いを想像することができる。

(4) 本時の取り組みのポイント

文章表現と挿絵の両面から登場人物の心情を考えて自分の言葉で表現させることは、ESDでは「③多面的、総合的に考える力」の育成に、教科においては「思考力・判断力・表現力」につながるものととらえている。

(5) 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援および留意点	評価と方法	時間
1. 本時の課題を知る。	・作品の挿絵と文章を比較ながら、その場面の理解を深めることを伝える。(2つの場面を取り上げる)		3
2. 挿絵の描き方や内容について説明する。	・美術の時間に学習した挿絵の技法や内容をふまえて、どのような絵として理解しているかを説明させる。		10
3. 文章と挿絵を比較し、内容の違いを考える。	 <ul style="list-style-type: none"> <li>①暗い電灯の下</li> <li>②栄養失調</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>①三人</li> <li>②青空</li> <li>②エンジン音</li> <li>③B29</li> </ul>	17



文章と挿絵の内容を比べて読みを深めよう。

4. 読み取った内容をふまえて「僕」の心情を言葉で表現し、発表する。

5. 本時のまとめをする。

- 文章と挿絵を比較し、
  - ①文章にも挿絵にも描かれているもの
  - ②文章にはあって、挿絵には描かれていないもの
  - ③挿絵にはあるが、文章には描かれていないもの
 を確認する。

文章と挿絵から読み取ったことを元にして、「僕」の心情をグループ毎に言葉でまとめさせ、発表させる。

【評価】文章と挿絵をふまえて心情が理解できている。  
 (能力③：多面的、総合的に考える力と関連：観察)

- 挿絵には、文章表現を補う内容理解のための要素があることを確認する。

18

2

資料

挿絵 A



→  
文章

十日間くらい入院したでしょうか。  
 ヒロユキは死にました。  
 暗い電気のしたで、小さな小さな口に綿にくまめた水を飲ませた夜を、ぼくはわすれられせん。泣きもせず、弟はずかに息をひきとりました。母とぼくに見守られて、弟は死にました。病名はありません。栄養失調です……。

挿絵 B



→  
文章

死んだ弟を母がおんぶして、ぼくは片手にヤカン、そして片手にヒロユキの身のまわりのものをいれた小さなふるしき包みをもって、家に帰りました。  
 白いかわいた一本道を、三人で山の村にむかって歩きつづけました。バスがありました。母は弟が死んでいるのはかの人に遠慮したのでしよう、三里の道を歩きました。  
 空は高く高く青くすんでいました。アウンブアウンというB29の独特のエンジンの音がして、青空にキラッキラッと機体が美しくかやいています。道にも畑にも、人影はありませんでした。歩いているのは三人だけです。

#### 4. 2年 実践例1

構成概念… I 「多様性」

能力・態度… 「③多面的, 総合的に考える力」

教科としてつきたい力 (思考力・表現力・判断力)

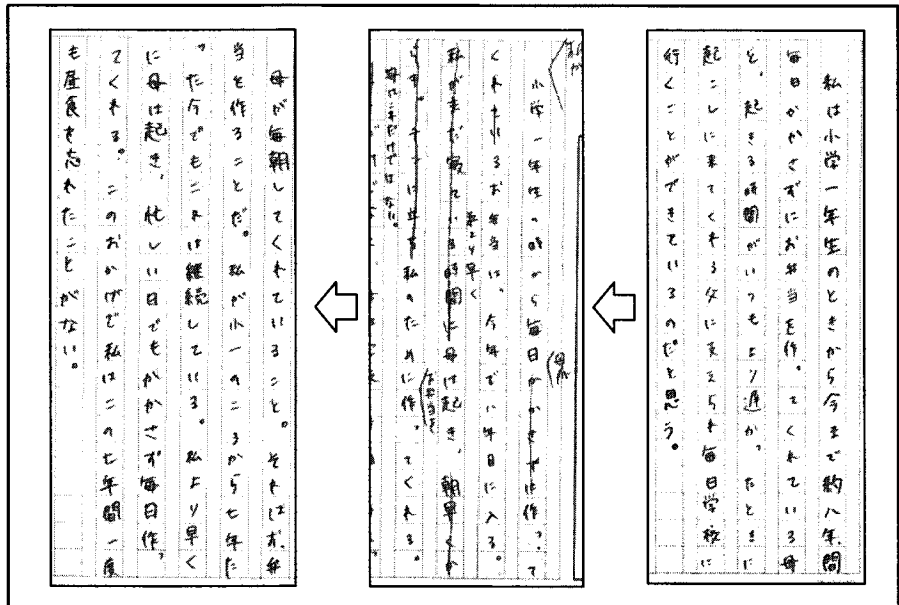
評価規準より「書いた文章を互いに読み合い, 文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして, 自分の考えを広げる力。」

授業では…「字のない葉書」の活動後, 「家族の絆」をテーマに作文活動を行った。互いに推敲し合うことで, 多様な文章の構成や表現方法, 家族の絆の捉え方に気付く。

##### (1) 作文の推敲例

他の生徒からのアドバイスや, 他の作品を読んで気付いたことから, 以下の点を直していった。

- ・文の流れがおかしい。
- ・同じ言葉の繰り返し。
- ・書きたいことをしっかりと分かったうえで修正・誰が何をしたらどうなったのかを意識し, 文をすっきりさせる。
- ・文の前後を変えてみる。
- ・読みたくなるような出だしの一文にする。



##### (2) 「自分の考えを広げる」ことについて。生徒の振り返りより。

〈多様性〉

- ・「家族」という一つのテーマでも, 一つとして同じようなものがなくて面白いし, それぞれの家族の良さとか特徴が出る作文で, 他の人のを読むというのはいいなと思った。
- ・クラスメートのいつもとはかなり違う一面を知って意外だった。
- ・身近なことだからこそその共感が生まれたり, 面白い表現にするからこそその独特の作品になったりして, みんな違って面白かった。
- ・読んだり聞いたりするうちに, その人の考えていることが自分と違う考えだったり視点の時は同じ内容を捉えていても楽しめるなと思った。
- ・自分では思いつかなかっただろうという新しい発想や, 独特な考え方を吸収することができる。
- ・人の作品に表れるその人の個性を感じることができる。

〈多面的〉

- ・自分にはない観点から多面的に見てもらえる。
- ・客観的な意見を聞くことで, 自分ではわかっていても他人にはわかりにくい表現, 読み手として受ける印象を知ることができる。
- ・人の作品を, 構成, 文の形成などのいろいろな視点からどうか考えることができ, こういった作文をする中で重要なことをより知ることができる。
- ・人の作品を推敲することによって, 自分自身も成長することにつながる。自分自身の考えの幅も大きく広がるのではないかなと思う。推敲することによって, 相手はもちろん, 自分自身も大きな発想に気付くことができる。
- ・相手の作品を読んだことによって, 物事を多面的に見る力がついたと思う。自分が気がつかなかった何気ない日常の中で, さり気ない家族の絆が確かにそこに存在しているのだと, 改めて家族の良さを実感することができた。またどんな表現が読み手を惹きつけるのか…表現の工夫の仕方も自分自身深く考えるよききっかけになったと思う。

## 2年 実践例2

「平家物語」の「祇園精舎」と「扇の的」を「平家琵琶」で聴き、その表現から内容を読み取った。また、この読み取りを、この後の音楽科の琴の授業において、「扇の的」の作曲活動につなげている。

### 生徒のメモ・感想より

#### 「祇園精舎」を聴いて感じたこと

冒頭部分。初めの言葉までの前奏の長さ、テンポの遅さ、低さ等についての意見が多く出た。

これから始まる平家一門の栄枯盛衰や、全体を貫く無常観を表すにふさわしい表現であることに触れる。

音が単発で静かな感じがする。一音一音が長く、奥深いふんいき。出しながら語っている感じ。理由：長くいる。ここで心をこめて、落ち着く。理由：声を出しているときは楽器の音を出さないの。うるさくなく、言葉がはっきり聞き取れる。長く伸ばして、重々しい。琵琶一文字に波がある。力強い。一文字一文字に波がある。始まるまでが長い。↓「祇」までの前奏？が長い。↓どんな始まり方を、そのかわくわくする。弱・音程の差が激しい。お経のよう。音が長くしたりおひつそりとして。低い音で歌っている。寂しい感じがする。

#### 「扇の的」を聴いて感じたこと

「祇園精舎」とは対照的にテンポが速く、緊張感あふれる表現。声の高さや、複数で語る部分について意見が多く出た。

弓を放ったときと扇が空に舞ったときの緩急、平家・源氏双方のどよめき等での表現方法に触れる。

祇園精舎よりも重なりを感じられる。リズムとメロディーが比較的分かりやすく聴きやすかった。最後はしんみりスウーッと消える。緊張感を出すため、徐々に声を大きくしていき、なおかつテンポも早くしていく。複数で言っている。後半になるとだんだん重くなってくる。声が高い↓変化を感じられる。テンポがいい。言葉がはっきりしている。祇園精舎より始まりが早く、すぐ唄いだしたので勢いを感じる。声が高めでテンポも速いから明るい。2人？で唄っているところがあって、そこがお経みたい。気持ちが高ぶっている（抑揚がある）：始めの方、扇の要際一寸ばかり置いて（高音で歌っている）。

### 感想・振り返り

この後の音楽とのつながりにも触れ、場面・内容と琵琶の演奏方法・語り方の関連について考えた。

音楽の授業では、この「扇の的」の部分の内容にふさわしい技法やリズムで琴を演奏し、本文を読む計画である。これについては、音楽科・国語科両方から評価する。

琵琶の音や語り方で大きく印象が変化するのでおどろいた。音楽のように様々な表現があった。「平家琵琶」では、ただ詠んでいるだけでなく、感情や情景などを表現するため、テンポや声の感じなどが工夫されていると感じた。「祇園精舎」はゆつたりと落ち着いた感じで、「扇の的」は中心の地にぎやかな感じだと思った。物語を表現するには、それぞれの場面によって琵琶のひき方やうたい方、またそれらの組み合わせ方など様々な表現の工夫をすることで、内容を伝えることができていると分かりました。平家物語は、本文だけでも感じられることは多いが、鎌倉時代の時のようにして平家琵琶として歌い語られることでより様々なことが感じられることを知った。し、歌が効果の役割になるように本文と曲とをうまく対応させ計算されて両方につくられていることを知った。歌うテンポや高さを変えるだけで雰囲気が変わって変わって同じ琵琶の音が違って聞こえたのが不思議でした。また、文で内容を理解しながら聞くことより情景が想像できて作品の魅力にひきつけられました。

## 2年4組 国語科 学習指導案

平成26年11月22日(土)

1時間目 2-4教室

指導者 岡崎 和美

### 1. 単元名 いにしへの心を訪ねる「平家物語」

### 2. 目 標

- ・古典の文章の調子やリズム，表現に慣れ，読み味わうことができる。
- ・昔の人のものの見方や考え方に触れ，古典に親しむことができる。
- ・昔の人のものの見方や考え方について，自分の考えを持つことができる。

### 3. 評価の観点と規準

- ・古典の文章の独特の言い回しやリズムを捉え，読み味わおうとしている。【関心・意欲・態度】
- ・古典の文章の調子やリズム，表現から，内容や伝えたいことを読み取っている。  
【読むこと，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】
- ・「平家物語」を読むうえでの基礎知識や表現方法，語の意味などを理解して朗読している。  
【読むこと，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】
- ・「平家物語」の冒頭部分や「扇の的」において，物語に書かれたものの見方や考え方について，自分の考えをもって発表している。【読むこと，伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

### 4. 指導にあたって

#### (1) 教材観（教材のつながりについて）

「平家物語」は1230年代頃に物語として創り始められ，1250年代に「平家物語」という名が定着したと推察されている。また書物として流布していた一方，琵琶法師の「語り物」としても人びとに享受されてきた。日下力・鈴木彰・出口久徳著「平家物語を知る事典」（東京堂出版 2005）では，次のように述べている。

（前略）そして十五世紀にかけて，平家物語は最盛期を迎える。

琵琶法師たちはさまざまな場で平家語りを披露した。（中略）書物としての「平家物語」享受と並行して，こうした幅広い琵琶法師たちの活動を通して，物語は巷間へと浸透していったのである。

このように「平家物語」は，琵琶法師によって語られることにより，武士や庶民階級にも広く浸透していった。「平家物語」が一部の人々の間のみで読まれているままだったとしたら，歴史のどこかで消滅してしまったか，あるいは今はほとんど世に知られていない存在だったかもしれない。この作品が現代まで受け継がれ，皆に親しまれ愛されているのは，琵琶法師による普及という点も大きいのではないか。そこで本教材では，この「平家琵琶」に着目し，音声面からのアプローチを試みた。書物としての「平家物語」だけではなく語り物として「平家物語」を味わう活動は，持続可能な社会づくりの構成概念「I 多様性」に関連してくると考えられる。教科間においては，琵琶の伴奏や，旋律のついた歌うような「語り」は，音楽科の琴による作曲活動へとつながっていく。また，社会科ではすでに歴史分野で「平家物語」に触れており，そこからのつながりも生徒にとっては興味をひくと思われる。

#### (2) 生徒観・指導観（思考力・判断力・表現力との関連と指導について）

本教材では，「平家琵琶」という音声面から「平家物語」に入っていく。さらに文章での「平家物語」でも読み味わうことにより，「ESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の「③多面的，総合的に考える力」を育成することを重視している。琵琶法師によって語られてきた「平家物語」は，耳で聴いて面白い音楽的な作品である。「平家琵琶」のリズムや調子，表現から「平家物語」の冒頭部分や「扇の的」の内容，伝えたいことなどを読み取り，味わっていききたい。また，この読み取りの過程は国語科としての思考力の育成につながっていくと考える。

5. 指導計画（総時数5時間）

- 第1次 「平家物語」について知ろう (1時間)  
 第2次 「平家物語」を読み味わおう (3時間)  
     第1時 「平家琵琶」で味わう【本時】  
     第2時 教科書の本文で読み味わう  
     第3時 「平家物語」を朗読する  
 第3次 「平家物語」に描かれたものの見方や考え方について、自分の考えをまとめよう (1時間)

6. 本時の学習（第2次中第1時）

(1) 題材名：「平家物語」（冒頭部分・扇の的）

(2) ねらい

- ・「平家琵琶」の調子やリズム、表現を味わおうとしている。
- ・「平家琵琶」の調子やリズム、表現などを内容と関連させて、伝えたいことは何か考えることができる。


(3) 評価の観点と規準

- ・「平家琵琶」の調子やリズム、表現を味わおうとしているか。【関心・意欲・態度】
- ・「平家琵琶」の調子やリズム、表現などを内容と関連させて、伝えたいことは何か考えることができたか。【読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(4) 本時の取り組みのポイント

物語である「平家物語」を、「平家琵琶」で聴き、音声面から味わう。また、その表現を内容と関連させ、伝えたいことは何かを考えていく。これは国語科の思考力の育成とともに、「E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度」の「③多面的、総合的に考える力」に関連している。

(5) 本時の展開

学習活動・内容	教師の指導・支援および留意点	評価と方法	時間
1. 前時を振り返り、本時の課題を知る。	・「平家物語」について、社会科で学習したことも踏まえて確認する。		5
「平家琵琶」で「平家物語」を味わおう			
2. 平家琵琶「祇園精舎」を聴き、感じたこととその理由を挙げる。	・音楽での鑑賞や琴の演奏、作曲との関連に触れる。	【評価】平家琵琶を聴き、感じたこととその理由をメモしたり発表したりすることができる。（能力③：多面的、総合的に考える力と関連）	10
3. 平家琵琶「扇の的」を聴き、感じたこととその理由を挙げる。			7
4. それぞれの場面を把握し、文章を見ながら再度聴く。	・「祇園精舎」、「扇の的」の文章を提示し、それぞれどのような場面かをおおまかに説明する。		15
5. 平家琵琶の調子やリズム、表現と内容を関連させて、伝えたいことを考え、発表する。	【評価】平家琵琶を聴き、表現の特色と内容を関連させて、伝えたいことを考えることができる。（能力③：多面的、総合的に考える力と関連）		6
6. 学習の振り返りを行う。	・出てきた意見を確認し、次時は教科書の本文から読み取っていくことを伝える。また、平家琵琶について補足があれば行う。		7

3年 実践例 「いにしへの心と語らう」

構成概念・・・I「多様性」

日本の伝統的な文化の1つと言える和歌(短歌)や俳句の魅力を理解し、それらが今日まで受け継がれ、世界で親しまれていることを知る。

能力・態度・・・「③多面的、総合的に考える力」

和歌に込められた作者の思いや表現の工夫を見だし、作品に心惹かれる理由や感じたこと考えたことを文章に表すことができる。

教科としてつきたい力 (思考力・表現力・判断力)

評価規準より「論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くことができる。」

授業では・・・心に響いた和歌・俳句について、資料を参考に、観点を選択して自分なりの鑑賞文を書くことができる。

(1) ESD (構成概念I, 能力・態度③) 関連授業の流れ

(「 」は、単元名または題材名/教科書:光村図書 国語3より)

①「俳句の可能性」「俳句十六句」

俳句の基本的な約束を知り、表現の深さを読み味わうことから、好きな俳句について観点を持って鑑賞する授業。

(生徒ワークシート)

<p>心ひかれた鑑賞：いなびかり北よりすれば北を見る</p>	<p>鑑賞の観点 (3)の③ 作者の感性・位置</p>	<p>俳句 雨の日の暗い空に丸と明るいなびかりが光たまに人間はどうもまのたろう々ます驚く事やあるとしてあさうくいなびかりが光た方向と探し向くたろう。当仁り前を思ふもしれない。しかし当仁り前のまのたろうが作者はまのたろうのまのたろうもまのたろうにしてはいる。</p>	<p>鑑賞 この句は人間の無意識をなげけ行動を表現した句である。いなびかりが光ると暗空に光たとき人間がどう行動をとるかという瞬間で、まのたろうは十七字という短く中で、特に変わった出来事もなく、ふれた光も同じにする。まのたろうは親しみやすく、持ちやすさ、俳句になっていると感ずる。</p>	<p>① 鑑賞・リズム ② 五七五型 ③ 句切れ ④ 作者の感性・位置 ⑤ 鑑賞の観点 ⑥ 作者の感性・位置 ⑦ 作者の感性・位置 ⑧ 作者の感性・位置 ⑨ 作者の感性・位置 ⑩ 作者の感性・位置 ⑪ 作者の感性・位置 ⑫ 作者の感性・位置 ⑬ 作者の感性・位置 ⑭ 作者の感性・位置 ⑮ 作者の感性・位置 ⑯ 作者の感性・位置 ⑰ 作者の感性・位置 ⑱ 作者の感性・位置 ⑲ 作者の感性・位置 ⑳ 作者の感性・位置</p>	<p>1. 呼吸をとりながら、読み進む。</p>		

②「君待つと一万葉・古今・新古今」

和歌に表された昔の人の心情や情景を読み味わうことから、国語便覧にある心惹かれた和歌について観点を持って鑑賞する授業。

(生徒ワークシート)

<p>心ひかれた鑑賞：月が寝もみちすればや眠りまするらん</p>	<p>鑑賞の観点 (2)の① 又は 鑑賞の観点</p>	<p>俳句 秋の歌、現代秋、月の中にははえていくといわれる桂の木も紅葉するから紅葉する。秋の月にははかの季節よりまよまよしている。桂と空想、想像の歌、久方の枕詞。</p>	<p>鑑賞 この歌はたまたま秋の月にははえていくといわれる桂の木も紅葉するから紅葉する。秋の月にははかの季節よりまよまよしている。桂と空想、想像の歌、久方の枕詞。</p>	<p>① 鑑賞・リズム ② 五七五型 ③ 句切れ ④ 作者の感性・位置 ⑤ 鑑賞の観点 ⑥ 作者の感性・位置 ⑦ 作者の感性・位置 ⑧ 作者の感性・位置 ⑨ 作者の感性・位置 ⑩ 作者の感性・位置 ⑪ 作者の感性・位置 ⑫ 作者の感性・位置 ⑬ 作者の感性・位置 ⑭ 作者の感性・位置 ⑮ 作者の感性・位置 ⑯ 作者の感性・位置 ⑰ 作者の感性・位置 ⑱ 作者の感性・位置 ⑲ 作者の感性・位置 ⑳ 作者の感性・位置</p>	<p>*呼吸をとりながら、読み進む。</p>		



③ 「夏草—「おくのほそ道」から」

万葉集の和歌から今日の短歌・俳句に至る歴史的背景や経緯の概要を知る。作者のものの見方や感じ方を読み取り、自分たちの住む地域で詠まれた句について鑑賞する授業。



(「芭蕉翁絵詞伝(義仲寺蔵)」より)

※ ここでは、発展学習として「松島」を学習した。作品中第一・二の歌枕で芭蕉の句が存在しないことを中心課題として、論理的(DWCの形)に各自の考えを出させた。まとめでは、実際の松島の美しさを見てみたいという思いと、未来へ受け継いでいくべき日本の財産への思いが書かれている。(生徒ワークシート)

【中二課題】なぜ、芭蕉は「松島」で句を詠まなかったのか。

・松島は扶桑第一の好風にして河原・西湖と歌も造化の又エ、いつれの人か筆とふるは詞とまこと。風雲の中に詠羅するこそあせしやせうたれ。

【理由付け】

・松島の風景は中国の有名な名勝に美しかった。  
 ・いつれの人か筆とふるは詞とまこと。松島の風景の美しさとは違っていた。あせしやせうたれ。芭蕉の句の存在感動は。芭蕉は松島に句を詠まなかった。芭蕉の気持は、いつれの人か筆とふるは詞とまこと。自分のものであった。

【結論】

【結論】松島の風景のあまりの美しさに心を奪われ、五・七・五という十七音の中に芭蕉の感動をおさめきれなかった。

【E S D】

・芭蕉が詠めた「松島」は、「日本三景」や国の文化財(特別名勝)他に指定されています。「松島」を学習して、①感じたこと、②このように日本の古典の財産を、未来に向けて持続させていくために国語の学習を通してできることを考えてみよう。

① 松島はあくのほそ道の口頭で、松島の月と水とくちようは芭蕉の理想とする場所であると思いましたが、その松島で芭蕉の気持はいつれ人か筆とふるは詞とまこと。芭蕉は松島に句を詠まなかった。芭蕉の気持は、いつれの人か筆とふるは詞とまこと。自分のものであった。

・私たちのような中学生が古典にふれ、俳句や和歌などを学び、自分の子や孫の代へと教え、伝えていくことが大切だと思えます。

(2) 他教科とのつながり

E S Dの視点・他教科とのつながりを意識した試行錯誤例

(「 」は、単元名または題材名/教科書:光村図書 国語3より)

① 「握手」「批評の言葉をためる」

小説の読解から、「題名・表現・構成・登場人物・テーマ」のいずれかの観点を選び、批評文を書く授業。 → 構成概念IV「公平性」、能力・態度「①批判的に考える力」





3. 読書と情報  
読書生活をデザインしよう  
【基本】

- ☆ 読み
  - 蝉の声(小説)
  - 高瀬舟(小説)
  - 光で見る展(デザイン) (随筆)
- ☆ マッピング(関連付)
  - ☆ 読書傾向の分析(自己分析)
  - ← 読み広げるための
  - ← 同分野の追求
  - ← 観点探し
  - ← 新分野に挑戦

あらずじ・要旨  
程度

(1) 挙げよう(分類・整理)

- ☆ 『読書ノート』プリントへ記入
- ← 分野・書名・作者など

(2) 紹介し合おう

- ☆ 『ブックトーク』をしよう(交流・情報交換)
- ← ①本・分野の紹介 ②なぜ選んだか
- ← ③メンバーへの勧誘 ④その他
- ☆ 『今後の読書生活に向けて』
- ← 話し合いから得られたことをまとめる

充実した読書生活を送ろう!  
(夏休みは?)

(生徒ワークシート)

3. 読書と情報(読書ノート) 3年 組 番氏名

★ 読書傾向の分析(自己分析)

1. 自分の読書傾向を分析しよう(69)

2. 未来の私にお薦めの本(70)

① 読書歴

② 本の見つけ方

③ 本の読み広げ方

④ その他

⑤ 今後の読書生活に向けて(ブックトークを始めて)

興味のある宇宙系の科学本を調べ、知識を深めたい。

また、ファンタジーは遠く現実の世界とありさうな小説も読んでみたい。

☆ 読書について友達にきいてみたいこと

随筆の例題は? 読書の楽しみ

① 本の見つけ方

② 本の読み広げ方

③ 同ジャンルの本を探し読み

④ 同ジャンルの本を勧誘

⑤ その他

好きな本は何度も読む

☆ これから読んでみたい本

天文宇宙 科学読物

未来医師のりり小説

☆ 今、興味のある作家

山田 隆太郎

アキラ クリスター

まーたの博

グループでのブックトークから、知らなかったジャンル、書籍の形体などに興味を示し、今後の読書生活に活かそうとしている。

(3) 成果と課題

3年生では、ESDでよく取りあげられる国際理解、気候変動、生物多様性、エネルギー等の題材を扱った内容の教材を抜き出すことから始めた。他教科とのつながりを意識した授業構築については現在も模索中である。少しずつではあるが、校内研修会等を通じて他教科の先生方とも連携を深める機会や実験的な授業を実践する機会を得た。

教科の目標としては、これまで「論理的な思考力」の育成をねらいとして研究を進めてきた。今年度、ESD研究の目標とこれまでの研究とを関連させ、持続可能な社会の形成者として必要な能力や資質を「持続可能な社会を形成するための課題を、国語で学習したことを使って解決する力と、国語で学習したことを積極的に使おうとする姿勢」と捉え、その力と姿勢の育成を目標とした。

研究初年度は、主に古文の授業で、ESDの構成概念Iおよび能力・態度③に関連した内容を取り入れてきた。今後の可能性として、世界で俳句や短歌がどのように親しまれているか(英語作品との比較)、世界文化遺産に登録されている平泉の魅力(歴史的観点や世界から見た平泉等)といった他教科とのつながりを意識した授業が考えられる。ただし、他教科での取り上げられ方にもよるが、あくまで教科としての目標を達成するための行程として、それらを単純な紹介に終始させないようにする工夫が必要であろう。また、各題材の目標をESDの構成概念および能力・態度のいずれに関連付けるのがより適切であるか、教科としてより効果的であるか、検討する必要があると感じた。

#### 4. 成果と今後の課題

国語科では、持続可能な社会づくりの構成概念の、「Ⅰ 多様性」「Ⅱ 相互性」「Ⅲ 有限性」に従って題材を考える中で、E S Dの視点に立った学習指導で重視する①～⑦の能力・態度のうち、特に「①批判的に考える力」「③多面的、総合的に考える力」「④コミュニケーションを行う力」に着目し、活動を行ってきた。

1年生では、まず「環境」や「国際理解」、「生物多様性」等のテーマについて材料を集めながら自分の考えをまとめることにより、E S Dに興味・関心を持ち、持続可能な社会づくりの構成概念の「Ⅰ 多様性」を意識するようになった。その後、「大人になれなかった弟たちに……」では、美術科との連携で文学的文章と挿絵という二つの面からの作品理解に取り組んだ。この活動では、挿絵に注目することで文章表現だけの読解よりも作品の読みは深まり、持続可能な社会づくりの構成概念「Ⅱ 相互性」を通して、E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「③多面的、総合的に考える力」の育成に成果があったと思われる。また、今後は文章読解の補助手段としての挿絵の可能性、社会科、技術家庭科とのつながりの可能性が考えられる。

2年生では、持続可能な社会づくりの構成概念「Ⅰ 多様性」、E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「③多面的、総合的に考える力」に着目して活動を行った。作文を互いに推敲し合うことで、多面的な視点を養い、多様な文章、多様な「家族の絆」の捉え方を知ることができた。また、「平家物語」では、平家琵琶の表現から内容を読み取ることで、多面的に古文を味わった。この活動は、現在音楽科の琴の授業にバトンタッチし、その読み取りを音楽的表現へとつなげているところである。文学と音楽それぞれの解釈の共通点や相違点を意識することで、今後の読解力が深まることを期待したい。

3年生では、主に古文で、持続可能な社会づくりの構成概念「Ⅰ 多様性」、E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「③多面的、総合的に考える力」の育成に取り組んだ。和歌・俳句について多面的、総合的に考え、観点を持って鑑賞し、その後発展学習として、E S Dの視点から日本の文化財「松島」についての考えを論理的にまとめた。また、他教科とのつながりにおいては、音楽科との協力で古典芸能の知識、見聞を広げる活動を行った。他、英語科や社会科とのつながりも考えられる。「ブックトーク」等、古文以外の教材でもE S Dと関連させてきたが、まずは教科としての力をつけることを目標とし、それが最終的にはE S Dの概念へとつながっていくものと考え、今年度は活動してきた。

このように、今年度は3学年を通してE S Dを意識付け、主に持続可能な社会づくりの構成概念「Ⅰ 多様性」と、E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力・態度の「③多面的、総合的に考える力」を育成する一年間であったと思われる。また、他教科とのつながりを重視した活動もいくつか行うことができた。教材によってはこれまでも他教科とつながったことはなくはないが、このつながりを生徒がより強く意識するようになったのが、今年度の活動であったのではないだろうか。今後は生徒自身がより柔軟につながりを見出し、自主的に他教科の学びを国語科の授業に活用したり、国語科の学びを他教科で活かしたりできるようになればと考える。そして、そのための思考力・表現力・判断力をこそ、国語科の授業で、育成したい。